

音楽アラカルト (三)

編集部

に、北は北海道から南は鹿児島・沖縄まで皆、涙し感
激していた。間違いなく単一民族だ。

だからこそ、次のような催しが本国スペインでなく、
日本で実現したのかも知れない。『日本スペイン交流4
00年記念』の特別講演での話である。

一・スペインの伝統音楽、日本で融合

その昔、中曽根元首相はしばしば日本人を単一民族
と表現し、時の歴史学者から響燈（ひんしゆく）を買
っていた。

でも、私（萩原）は民族的、歴史学的には学者が
言うのが正しくても、現在の生活面では「日本人は単
一民族」と見ていいのではないかと思う。

昨年、スコットランドがイギリスから独立する、し
ないと国民投票までやった。

あんな小さなスイスですら、ドイツ語、フランス語、
イタリア語が公用語で、ロマンシュ語を話す人々も存
在する。

一方、日本を見ると、人口の多さは世界で9番目で
ありながら、NHKの朝の連続TV小説「マッサン」

「これが初めてなのです。アンダルシア、バスク、
ガリシア地方の音楽家と同じステージで共演するのは。
本国スペインでは成し得なかったことが日本では実現
したので」とガリシアのパグパイプ奏者、カルロス・
ヌニェスが語り続けた。

スペインの各地域には、独自の歴史や文化がある。

* ケルト文化の残るスペイン西北部ガリシア地

方ガイタ（ガリシアン・バグパイプ）奏者

* スペイン南部アンダルシア地方のフラメンコ

ピアノ奏者

* 北部バスク地方の打楽器チャラパルタ奏者

この3者が日本の東京・すみだトリフォニーホール、
埼玉・所沢、静岡・焼津3地域で共演した。

日本ならではの とは彼らの思いである。

二・ハープ

きらびやかな音色を奏するハープは、私の憧れであ
った。娘が授かれれば、是非、ハープ奏者に育てたいと
思った。自らの才能、財力など顧みないで。娘は授か
ったが、カエルの子はメダカ止まりで助かった。まか
り間違つてハープ奏者にでもなれば、私は酒もゴルフ
も諦め、全ての小遣いをハープに奉けても叶わなかつ
ただろう。

ハープの起源はおよそ5千年前に遡るとされる。世
界各地にはさまざまな種類が伝わっていて、欧州で発
達した重厚で弦の多いハープだけでなく、小型でシン
ブルなものもある。

ハープは狩猟に用いられていた弓矢をもとに作ら
れたとされる。弓を射たときに鳴る音は、弦の張りの
強さによって異なる。

弓の弦は1本だが、それを増やして楽器にしたもの
がハープであると言える。

生活のなかから生まれた楽器なのだ。既存するもの
の中でどれが最古かについては諸説があるが、一般に

は中東にあったウル王朝のころのものとされる。

ウシの頭飾りが施されたものが、いくつか残ってい
る。ただ、それよりは古い洞窟画にもハープが描かれ
ていて、発祥の時期ははっきりしない。

古代エジプトや古代ギリシャでは、政治と密接にか
かわる行事や祭礼で使われていた。時代が下るにつれ
て姿や形が工夫されながら、アジアのたて琴、中南米
のアルパ、欧州の大型ハープなどと世界に広がってい
った。

日本には奈良時代、シルクロードから中国を経て入
って来たと言われ、正倉院に空篋（くご）という、正三
角形のような形をしたものが残っている。ただ、絵や
巻物にはあまり登場しておらず、国内で演奏される機
会は少なかつたようだ。

空篋と似たものは東南アジア各地にあり、小説「ピ
ルマの竖琴」に登場するものもその一種である。

アルパはスペイン語でハープのこと。高音の美しい
リズムカルな音色は多くの人を魅了する。

ここまでは、それなりにハープを研究し、演奏もし
た方が書いた文章から抜粋させていただいた。

まあ、いずれにせよ原始的な楽器ゆえ、多くの場所

で愛され、弾き継がれ、場所によって少しづつ大ききや形、音色が異なるところが面白い。

お琴だつてある意味、ハーブを横にしたものと言え。否、ハーブがお琴を立てにしたらだけ なのか。

三. 船上のバイオリン弾き

人は人生で色々な出会いがあり、そこで大きく生き方が変わったという人がいる。ただ、歴史に、人生にIFはない とも言えるから、その出会いがなかったらどうなっていたか は解らない。

いずれにせよ、偉大な人の出会いはドラマであり、面白い。そのような一つをご披露したい。

大正11年(1922年)12月29日、その夫婦は門司港から榛名丸に乗船しマルセイユへ。

その船上である日の夕暮れ時、波に大きく揺れる甲板で身体を左右に揺らしドボルザークのユーモレスク

をバイオリンで奏でいた男がいた。そして先の夫婦は忘れ得ぬ思い出を染み込ませた。

その時、船上でバイオリンを弾いたのは、あのアイシユタインであり、聴き惚れた夫婦は千住真理子の祖父母であった。

90年後、日本外航客船協会よりクルーズアンバサダーの任命を受け、船上のロマン、人生の喜びを与えるためにバイオリンを弾き続ける千住真理子の姿があった。祖父母の夢を実現させたのか? 今日千住真理子を生んだのは、アイシユタインなのか?

四. 愛する人に呼びかける音楽

ベートーベン「第九」を人類に向けて書いたという。しかし、シューマンはたった一人の愛する人のためにピアノ曲を書いた。全てはクララに弾いてもらいたいがためだった。そのクララは十代前半で早くも天才少女ピアノリストとして欧州に名をはせていた。

彼女の父のヴィークは優れたピアノ教師で、シューマンはピアノを習うためにヴィーク家に通い、クララと出会う。彼女が16歳くらいの時に2人は愛を誓い合う。父の猛烈な反対は、逆に愛を深め膨大なラブレターを交わす。

人類に向けて創作されたものよりも、一個人に向けて作られたものがあるなら、当然、その方が、その人には、最高に素晴らしいものと私は思う。

例えば私が私にだけ、私のために作られたおにぎりであつても。

五. バイオリニストの歯

ホームラン王の王選手の奥歯はポロポロだそう。それは、渾身の力を秘めて、バットを振るからである。では宮本武蔵の奥歯はどうだったのだろうか?

バイオリニストも演奏しながら時折無意識に奥歯を噛み締めているらしい。強く弾くような個所で歯を食

い縛り、楽器を顎で固定しつつ圧力を加えるからだ。

バイオリンは、鎖骨と顎の骨で挟んで持つ。骨伝導が音色の決め手になる。身体中の骨が震動体となり全身を駆け巡る。顎からは、歯を伝わって頭蓋骨まで音が響く。同じバイオリンを別人が弾くと誰一人、同じ音色を出す奏者は存在しないという。「身体が楽器」になる点は歌い手と似ている。最近、肩当てを使う人が増えているが、それはいかなることからか。

六. ピオラの魅力

ジュネーブ在住で、世界的に活躍するピオラ奏者今井信子ジュネーブ高等音楽院教授かつ上野学園大学教授が語る『ピオラの魅力』

ピオラは音楽の本質となる楽器

華やかなバイオリンなどに比べ、ピオラはオーケストラでは脇役の弦楽器という印象が強い。

演奏方法などががんにがらめに決まっていたバイオリンに比べて自由に弾けて、官能的な音色が出せる印象がビオラにはある。

ビオラはバイオリンに比べ音階が5度低く、形は同じでも約10cm大きく、弦も太く、重さも重い。弓もやはりやや重い。ビオラを弾くにはバイオリンよりもずっと体力がいる。

しかし、音色はまるやかで、深みがあつて表現力は豊か。バイオリンやチェロに比べると人間の肉声に近く、人間の魂を音で奏でるような、心に染みる演奏が出来る。わびとかさびとか言う人がいるが、音楽の本質となる楽器である。

ビオラはワインボトルの中身そのもの

第一バイオリンはワインで言えばボトルに貼られた品種や産地、生産年などの説明を書いたラベル。

チェロはワインが入ったボトルに例えられる。内声に当たる第二バイオリンとビオラこそ中身そのもの。ワインの味を決めるのは内声楽器次第。

第一バイオリンが旋律を奏で、それをビオラが低い音程で繰り返したり、転調して奏でたり。チェロは全

彼が自分の手を開いて見せたが、まともな指はほとんどなく、歪んでいた。

指揮者用の楽譜台は鉄製が多く、夢中になって指揮をしているうちに、指がその台に激突し、骨折を繰り返した結果だという。

あるジャズピアニストがエッセイに書いていたが、演奏中に実に多くのヘマを繰り返したという。それも音楽的な失敗ではなく。(そちらは言うまでもなく)

ステージの床が滑り易く、本番の最中に、勢い余つて椅子から落ちた。でも尻もちはずかず、そのまま中腰になったあと体勢を立て直し、無事にもとの座位にもどった。その間、何事もなく弾き続けた。と。

ヨーロッパでは、ジャズピアノを弾いている時に、指輪が飛んで、ギター奏者の頭に当たり、彼は何事が起ったのかと驚いて、演奏を辞めて泣きだした。とも。

あるコンサートでは、背中が大きく開いたドレスを着た時のこと。ドレスのラインを壊さないようにするために、外にひびかないように工夫された下着をつけなければならなかった。いわゆる「ヌーブラ」。ストラップも何もなく、つけるというよりは、単にのせるだけの、そういう種類の下着。

体の和声を支える。演奏の中で、1人对3人、2人对2人に分かれることもある。もちろん意見の相違から音楽作りで対立することもある。とことん議論しても解決しないこともある。演奏会以外では口もきかないグループもあるという。人間関係は大事だが、高い水準を求めるために妥協はしない。悩みながらも、最後に一本になればいい。

管弦楽曲でも、どの楽器も音楽を奏でているのであって、主従があるわけではない。それぞれが音楽を創造するために違う役割を果たし、助け合う。

ビオラの1つの音で全体の音楽が変わってしまう。それを感じる瞬間、職人の喜びを味わう。

七. ステージ上の変事

NHKの朝のテレビ小説「マッサン」に続いて「朝イチ」を観ていると、その日のゲストは小澤征爾であった。会員の皆様の中にも観た人は多いと思う。

演奏に夢中になったために、ヌーブラは身体の動きと一緒になくなってくれず、ドレスの中をつるつと滑り落ちた。その落ちたブラを両膝の内側で必死にキャッチ。もちろん弾き続けたまま。

ふと気が緩んだ時、ヌーブラはぼろつとステージの床に落ちた。マネージャーが気を馳かせて、床部の照明を落としてくれたお陰で、客席からはたぶん見えなかったはず。という。

いやいや、いろいろあるものですね。これからは、そちらにも神経を使つて演奏を聴きたい。

八. 『ティンパニ』は皆 持っている

日本フィルハーモニー交響楽団やら、ヴェルディ・ミラノ交響楽団で打楽器・ティンパニ奏者だった梅津千恵子さんの話によると、彼女がイタリア在住時代、お嬢さんが中耳炎になり、耳鼻科へ。

そして処方薬の説明を受けていた折、先生の言葉の

中に「・・・ティンパノ・・・」とあり、それが鼓膜であることが分かった」とありました。

左右2つあるので「ティンパニ」となる」とのこと。さて、楽器のティンパニの方ですが、特徴は、大きいこと、お釜のように場所をとること、一つ一つ大きさが異なること、そして大小あまたある打楽器の中で、唯一、音程を変えながら演奏ができることで、オーケストラなどで要の役割を担う楽器であることにあります。

かつてハイドンの交響曲で初登場した『ド』と『ソ』だけの時代から、足元のペダル操作で音程を変えられるという楽器の進化に伴って、音程の激しい難曲が増えたそうです。

この梅津さんのティンパニと共演したのが、オーストリア・ザルツブルグ出身のダビット・クリストファー・パンツェルさん。

彼は、純粹のオーストリア人で、打楽器奏者として、ウイーン放送交響楽団、ウイーン国立歌劇場等で活躍。と同時に、日本好きで、最初は柔道、しかし怪我の危険があることから、剣道に変更。今は私の住む松戸市

なく、連日、写真入りで大きく報じられていた。

『天使の歌声』 当時の彼らに当てられた言葉である。戦後も十年が経ち、少し豊かさが感じられるかな？と思われた時期。それでもウイーン少年合唱団の子ども達のかっこよさ、豊かさは我々との比ではなかった。

さて、今年は60周年記念で、4月25日から始まり、6月14日まで全国で27か所も公演が続く。

ここで少し、彼らの歴史を紐ときたい。歴史は500年以上にも及び、1498年、ハプスブルグ家出身の神聖ローマ帝国皇帝マクシミリアン一世が創設したウイーンの王宮礼拝堂のための聖歌隊が起源である。

10〜14歳の少年100人が所属し、4組に分かれて活動している。各組には「ハイドン」「モーツァルト」「シューベルト」「ブルックナー」と偉大な作曲家の名前が付いている。いずれも『王宮礼拝堂付属少年』（旧称）で活動したり団員だったりした作曲家である。団員はオーストリアをはじめドイツ語圏の子供達ば

に隣接する流山市の剣道家に寝泊まりし、剣道と打楽器演奏に活動している。

その彼が和太鼓を打ち、梅津千恵子さんがティンパニで応じた時には驚いた。

その他、ティンパニとお琴、お琴とピアノ、フルート、バイオリン等との競演には、驚かさせられると共に、意外なマッチングのよさを感じさせられた。

九. ウイーン少年合唱団

初めてウイーン少年合唱団が日本に来たのは、昭和30年で、私が千二小・六年生の時である。

その当時、TVはまだ、一部のお金持ちの家にしかなく、我々はそうした友達のお宅か、関西大学の食堂まで行き、目的の番組を観るしかなかった。

栃錦や若乃花の大相撲、力道山・シャープ兄弟のプロレスの試合がその対象であった。

だからこの少年合唱団のことを知るには、新聞しか

かりではなく、国籍は様々。

ウイーンでは少年全員が寄宿舎に入り、午前6時45分起床。7時に朝食。7時半〜10時45分まで合唱団専属の学校で授業。11時〜午後1時まで先生のものと合唱の練習。1時に昼食。1時半〜2時半まで個別練習。2時半〜6時までまた授業。音楽漬けの共同生活を4年間送る。

OBも頻繁に訪ねてくる。合唱団で過ごした4年間は人生で最も素晴らしい時代だったと話す人がとても多いそうだ。60年前に日本に行くと話すOBもいる。当時は半年くらい続けて各国を巡るのが普通だったそうだ。

2011年にも今回と同じ「ブルックナー」組が来日する予定であった。

しかし、東日本大震災が起き、訪日がかなわなくなった。それ以来の来日である。

子供達は日本の歌が好きで、毎回、6曲ほど歌うそうだ。特に人気が高いのは、岡野貞一の『ふるさと』だという。

東京デイズニールランドも少年たちのお目当てというのは、矢張り子供らしくていい。